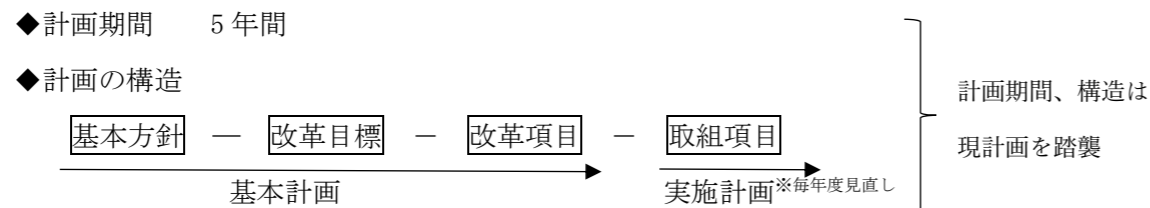


1 経過

次期計画の考え方 (R2. 2/17 行革本部会議)



2 次期計画について (案)

- 次期計画=この 5 年間に取り組むべき改革
 - 改革・・・事務事業のあり方や取り組み方を変える
 - ⇨改善・・・現在のやり方を改良する
- 方向性
 - ①他の計画との重複を避けた内部管理を中心に
 - ②行政課題への対応
 - ③活動志向から成果志向へ (KGI,KPI による管理)
- 計画期間 令和 4 年度～8 年度 (令和 3 年度中に計画策定)

○現計画の反省

【現計画の策定方法】

- 改革目標を改革項目、取組項目へ分解し、取組項目に合致するした取り組みを収集・列挙

【課題】

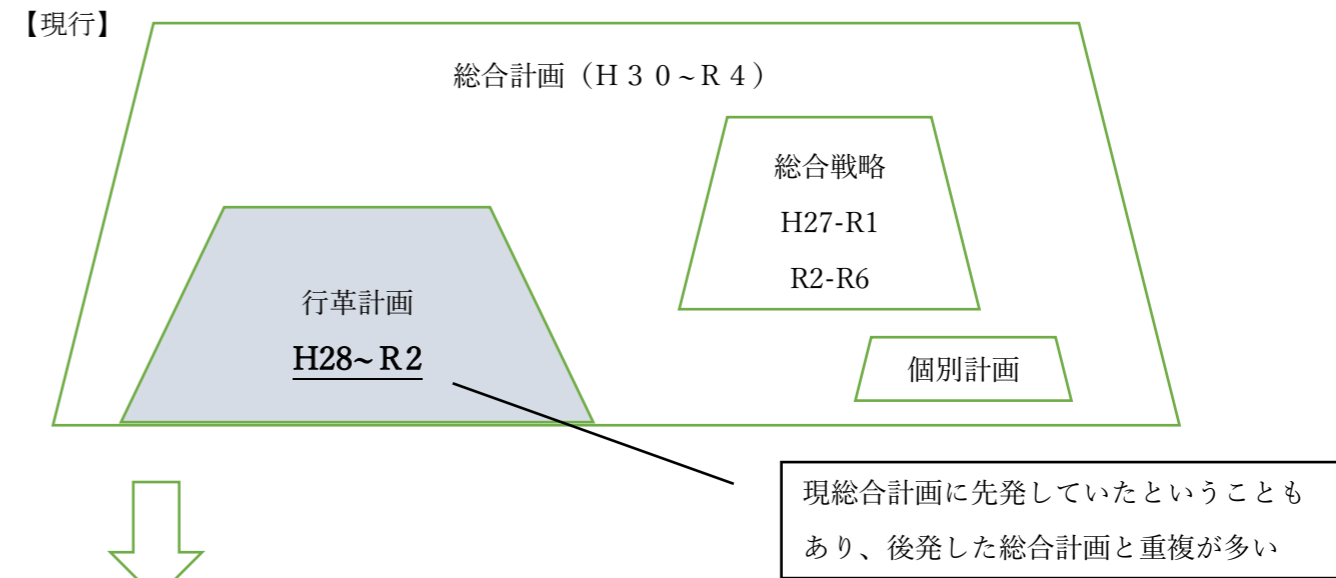
- 他の計画と重複し項目も多い
- 本来意図したトップダウンではなく、原課事情が優先された

【次期計画の方向性】

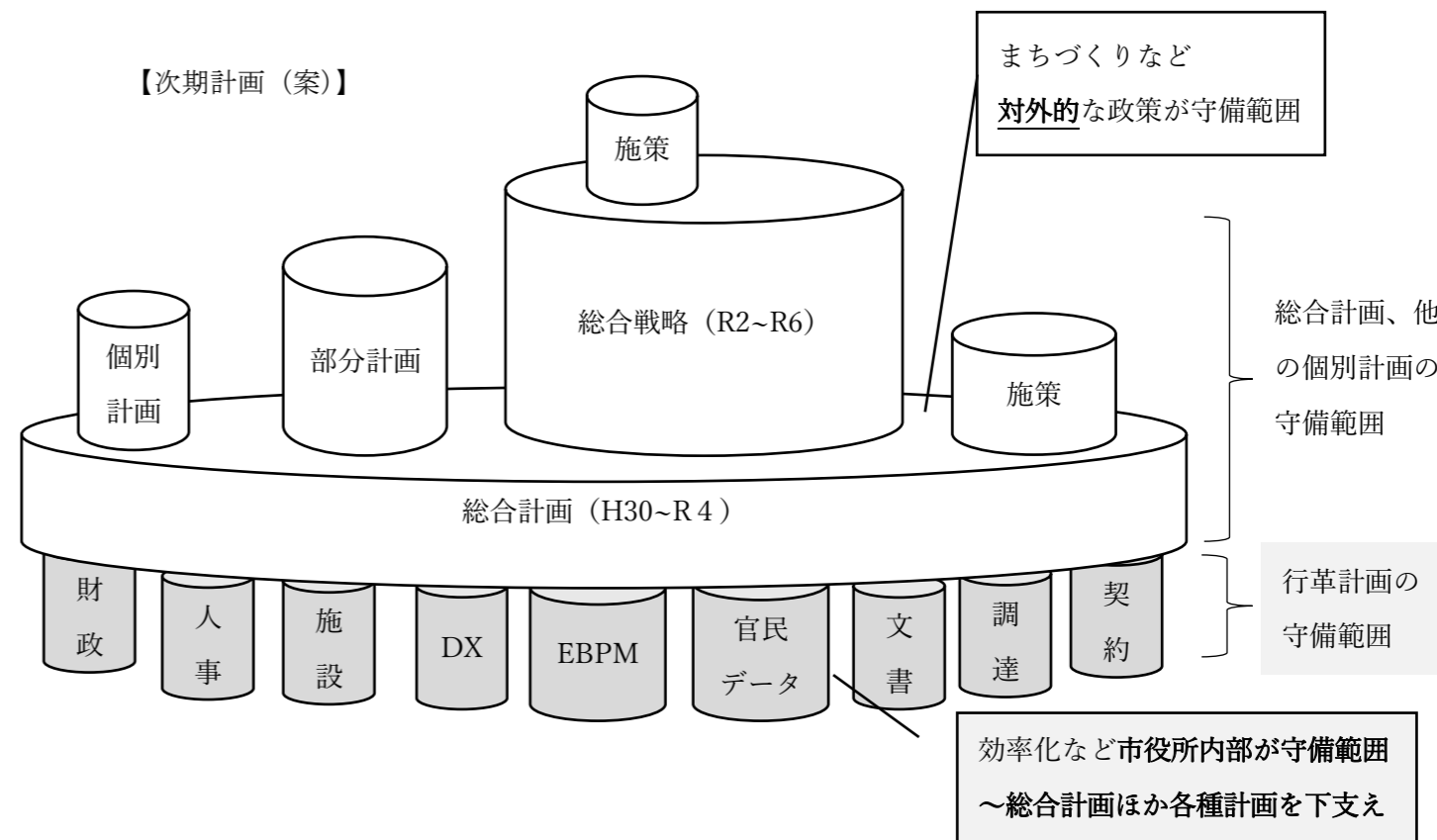
- ☆総合計画、総合戦略などを下支えする内部管理的な事柄を中心にする (例：事務の ICT 化、スマートワーク、環境対応など)
- ☆総合計画、財政計画、予算等と連動したトップダウンによる進捗

【方向性①】 内部事務の改革を中心とした計画 (≠政策の変更)

◎総合計画ほかの計画との関係

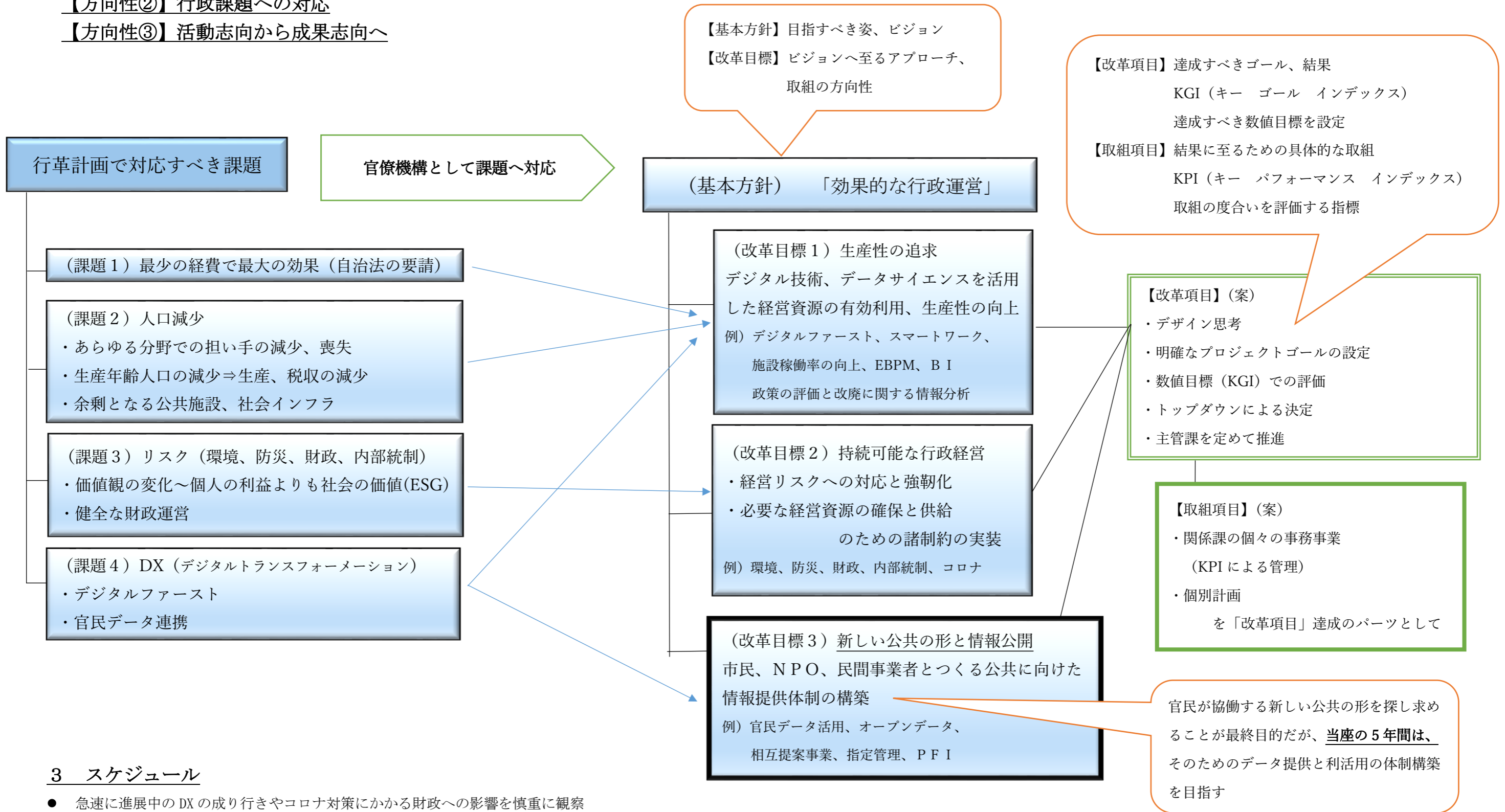


【次期計画 (案)】



【方向性②】行政課題への対応

【方向性③】活動志向から成果志向へ



3 スケジュール

- 急速に進展中のDXの成り行きやコロナ対策にかかる財政への影響を慎重に観察
 - ➡基本計画、実施計画とも、**令和3年度に策定**
 - 計画期間は、**令和4年度から8年度(5年間)**